

### スポーツの輪いつまでも

甲賀市スポーツ少年団交流大会

1月27日(日)、スポーツ少年団交流大会2008が土山体育館で開催され、市内のスポーツ少年団33団から6年生198名が参加しました。

団員は、16班に分かれ、午前中「ドッチビー」と「キックソフトボール」のニュースポーツ2種目の試合が行われました。引き続き行われたグループ会議では、「スポーツ少年団に入ってよかったこと」などのテーマで意見交換を行い、多くの団員から一番に「友達がいっぱいでできてよかった」などの声があがっていました。

その後、指導者と保護者にも作ってもらった豚汁で寒いからだを温め、思い出し、残る一日を過ごしました。

今年度卒団する団員の皆さんが、今回の交流大会や今までの活動を通して得たものを財産として、今後も引き続きスポーツを楽しみ、活躍することを期待しています。



グループ会議での意見を発表



ニュースポーツで交流を深めました

市内各地域には、サッカーや野球、ミニバスケットなどのスポーツ少年団が66団あります。

各スポーツ少年団は、土日を中心に小学校のグラウンドや体育館などで頑張っている姿をよく見かけます。

でも知らない活動もあるものです。もっとスポーツ少年団を多くの方に知ってもらいたいと2月3日(日)から2月10日(日)まで、あいこう市民ホールで「甲賀市スポーツ少年団活動展」が開催されました。

同展では、それぞれのスポーツ少年団が写真などを中心にした活動記録が展示され、訪れた親子やお年寄りの皆さんなど、多くの方に自分たちの頑張る姿を紹介できたようです。

### スポーツ少年団を知ってもらおう

～市民ホールで活動展を開催～



### 雪の中で自然を満喫

～大野保育園自然体験学習～

2月13日(水)大野保育園年長児が自然体験型環境学習で自然を学びました。

この学習は滋賀県環境学習支援センターの主催による体験学習で、近くの花枝神社の森の中で行われました。

この日は、前日から続く雪が積もり、森の中も一面真っ白、でも園児たちには関係なし、元気に森の中に入って学習です。

園児は、雪まみれになりながらいろいろな木を見たり触れたり、泥まみれになりながら地面を掘ったりして、たくさんの自然にふれあい、自然の大切さを学ぶことができました。



木の音ってどんな音かな

### 畑のしだれ桜に二世誕生



しだれ桜の前に二世誕生を喜ぶ保存会の服部純一郎会長(左)ら関係者の皆さん

毎年春には、市内各地域で桜の花が咲き、私たちの心を和やかにしてくれます。

市内の桜の名所のひとつである、畑のしだれ桜(信楽)にこのほど二世が誕生し、2月18日(月)、岡山県にある独立行政法人森林総合研究所林木育種センターから5本の桜の子どもが里帰りしました。

現在のしだれ桜は樹齢400年の老木で、枯れている部分も多く、幹は空洞になっています。

そのため、地元で「しだれ桜保存会」を結成、樹勢回復対策に取り組みを進めてこられました。また一方では、将来に向けて二世の増殖を進め、このほど増殖を林木育種センターに依頼、同センターのクローン増殖技術により、今回の二世誕生となったものです。

地元では、今回事業終了した二世を現在のしだれ桜がある敷地周辺に植える予定で準備を進めており、2、3年後の開花を楽しみにされています。

### 本番さながらの熱い議論

平成21年5月までに始まる裁判員制度、この制度は、国民から無作為に選ばれた裁判員が、殺人、傷害致死などの重大事件の刑事裁判で裁判官と一緒に裁判をするという制度です。

法律の専門家ではない国民が裁判に参加し、国民一人ひとりの感覚や経験に根ざした新鮮で多様な視点をもたらされる画期的な制度です。

2月16日(土)、この制度の周知、理解のため、あいこう市民ホールで裁判員制度フォーラムが開催されました。

フォーラムでは、例題を用いて模擬評議が行われ、参加の皆さんは、裁判員となり、判決を導き出しました。

裁判所そのもののような熱い議論が行われ、制度への関心、理解が一層深められたようです。

～裁判員制度フォーラム～



模擬評議の様子

### 新製品の

### 開発・市場開拓を

地域資源フォーラムin甲賀

地域資源を活用した新製品の開発・市場開拓を進めようと、市と独立行政法人中小企業基盤整備機構近畿支部との共催による「地域資源フォーラムin甲賀」が2月22日(金)に県立陶芸の森で開催されました。

当日は、「新甲賀ブランドの創造に向けて」と題して、地域資源を活用したものづくり、サービズづくりを考える講演会が行われた他、モデル的な取り組みを進めている方をお迎えして「地域資源を活用したブランド作り」を考えるパネルディスカッションなどが行われました。

このフォーラムには、信楽焼の製造に携わる方や若手作家の方などが中心に多くの方が参加、新しいブランドづくりに向けてのヒントを得られたようです。

なお、このフォーラムは、国際陶芸産業都市特区事業の一環として行われたものです。

